

## 問題006 大化の改新と白鳳文化② 律令制度①

01 天智天皇の没後、672年に、天智の弟の〔<sup>おおあまのおうじ</sup>大海人皇子〕と天智の子の〔<sup>おおとものおとし</sup>大友皇子〕との古代最大の戦乱が起り、前者が勝利した。これが壬申の乱である。

02 この乱に勝った皇子は〔<sup>てんむてんのう</sup>天武天皇〕として飛鳥に帰還して〔<sup>あすかきよみほらみや</sup>飛鳥浄御原宮〕で即位した。684年には豪族の姓を〔<sup>やくさのかばね</sup>八色の姓〕で再編し、天皇の地位を飛躍的に高めた。

03 この天皇の没後、皇后の額良良姫が孫の成人までの間、〔<sup>じどうてんのう</sup>持統天皇〕として即位した。

04 この天皇のもとで、689年には〔<sup>あすかきよみほらみや</sup>飛鳥浄御原令〕が施行され、翌690年には戸籍の〔<sup>こういしなんじやく</sup>庚寅年籍〕が造られ、694年には初の〔<sup>としやう</sup>都城〕である〔<sup>ふじからきやう</sup>藤原京〕に遷都した。

### ●白鳳文化

05 白鳳文化とは、大化の改新から天武・持統朝を中心とした、律令国家形成期の清新な文化である。国家仏教が本格的に展開し、〔<sup>やくしじ</sup>薬師寺〕や〔<sup>たいいん</sup>大官〕などの官寺が建立された。

06 貴族層には漢詩が受容された。また和歌も形を整えてきた。この時期の代表的歌人としては、〔<sup>かきものひとまる</sup>柿本人麻呂〕や女性の〔<sup>ぬかたのおおきみ</sup>額田王〕が知られている。

07 白鳳文化を代表する現存する建築物は〔<sup>やくしじとうとう</sup>薬師寺東塔〕で、装階を付けた「凍れる音楽」の美を現代に伝えている。

08 〔<sup>こうふくじぶつとう</sup>興福寺仏頭〕は、山田寺の本尊が興福寺の僧兵によって奪われ、20世紀に入って発見されたものである。

09 白鳳文化の絵画としては〔<sup>ほうりゆうじこんどうへまが</sup>法隆寺金堂壁画〕があったが、戦後の1949年に全焼した。

10 奈良県明日香村にある終末期古墳の〔<sup>たがまつ</sup>高松塚古墳〕壁画は四神や男女の群像が描かれており、当時の服装を今に伝えている。

### ●律令制度

01 持統天皇の孫である〔<sup>もんむてんのう</sup>文武天皇〕の701年、大宝律令が完成した。

02 律令のうち〔<sup>りつ</sup>律〕は刑法にあたるもので、行政法などにあたるものが〔<sup>りやう</sup>令〕である。

03 〔<sup>げんしょう</sup>元正天皇〕の718年、藤原不比等らにより〔<sup>よるうりつりやう</sup>養老律令〕が制定され、孝謙天皇の757年に施行された。この律令は、形式的には明治維新の1868年まで続いた。

04 大宝令で定められた中央官制のうち、「二官」とは〔<sup>じんぎかん</sup>神祇官〕〔<sup>たいしやうかん</sup>太政官〕八省とは中務・式部・治部・民部・兵部・大蔵・宮内の各省である。

05 〔<sup>たいしやうだいしや</sup>太政大臣〕は最高官職だが、常に置かれる必要はないとされた(奈良時代に2人しかいない)ので、常置の最高職は〔<sup>さだいしや</sup>左大臣〕、ついで右大臣である。

06 大宝令や養老令に規定がなく、新たに加わった官を〔<sup>りやうげのかん</sup>令外官〕という。

07 〔<sup>だんじやうたい</sup>弾正台〕は、役人監察のために置かれた役所である。

08 摂津国には、難波津や難波宮もあるため、国司ではなく〔<sup>せつしき</sup>摂津職〕が置かれた。また、西海道諸国は〔<sup>たさいふ</sup>大宰府〕が統括した。

09 京およびその周辺の5か国は〔<sup>きない</sup>畿内〕とよばれた。諸国は〔<sup>しちどう</sup>七道〕に区分された。

10 政府直轄の道は〔<sup>かんどう</sup>官道〕とよばれ、約16kmごとに〔<sup>うまや</sup>駅家〕が置かれて公用の者だけが駅馬を使用できた。